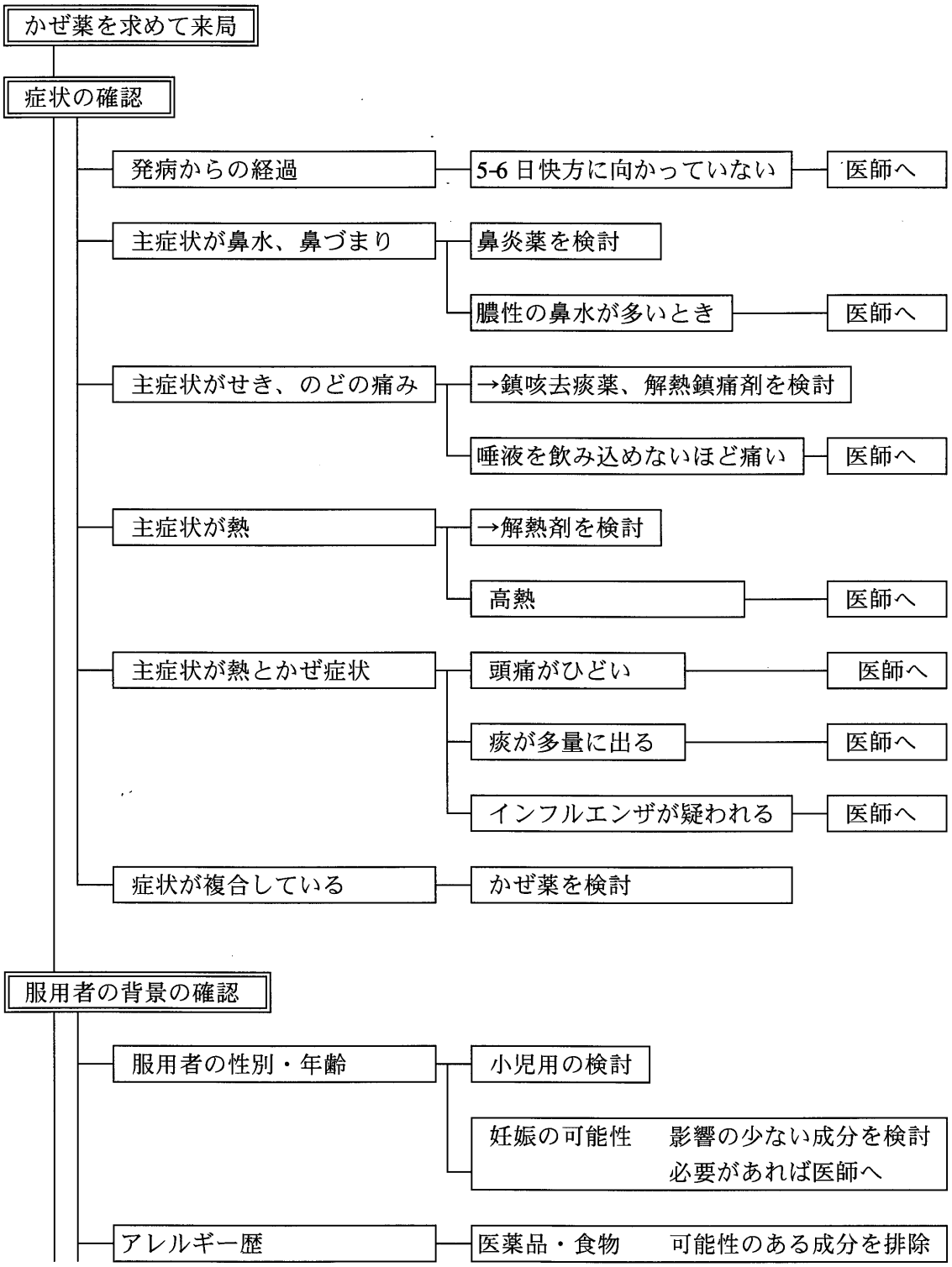
一般用医薬品の販売における薬剤師対応の流れ（例示）

1 かぜ薬



病歴

肝障害、腎障害で治療中 → 医師へ

前立腺肥大、緑内障、高血圧
心臓障害、消化性潰瘍、
甲状腺機能亢進症、等

病状を悪化させる成分に注意

現在服用中の薬の有無 → 薬、健康食品等との相互作用に注意

生活スタイルを考慮

- 車の運転をするかどうか
- 服用回数、服用時点

一般用医薬品を選定

服薬説明

①服用期間　改善されなかった場合の指示(医師の受診を勧める)

②副作用発現への対応

・眠気発現による危険性回避への指導など

・重篤な症状を引き起こす前駆症状(めまい、動悸、吐き気、発疹、視覚異常等)発現時の指導（服薬中止→かかりつけ医の受診）

・高熱の場合の対処方法（水分補給の必要性）

・熱性痙攣への対処方法(衣服をゆるめ、かかりつけ医への連絡等)

③他の治療法の有無の説明

抗生物質、抗アレルギー剤、抗ウイルス剤等、一般用医薬品よりも有効な治療法がある場合の説明。

④飲食と薬の関係

・飲酒による薬物代謝の遅延　副作用発現頻度の上昇

・胃への負担を減らすためのアドバイス。

⑤授乳中

乳児はカフェインに敏感。授乳中はカフェイン含有のものをなるべく避けるほうが好ましい。

日常生活に対するアドバイス

①休養の必要性、消化の良い食べ物、規則正しい生活習慣の必要性

②嗜好品の影響